

この物語は、  
栄光、そして挫折を味わい、  
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

# 江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka  
業界初、Web運動企画！ (URL) <http://hesar.yokohamaturumi.net>

## 〈Vol.5〉スーパーチャンプ岡田 清のセット釣り② スーパーチャンプとの一問一答。

江成から、2ヶ月分の手稿が届いた。

原稿を読み終えた編者の手は震えていた…

かつて、セット釣りをここまで掘り下げた記事があったであろうか？

編者の期待を遙かに超越した岡田 清のセット釣りの世界に、江成がズバリ肉薄している…！

ここにお送りするのは、その前半部である。

もちろん水中は見えない。あくまでイメージの世界だが、

ぜひ来月号と合わせて最後まで読んでみてほしい。

次回の釣行には間に合わずとも、いつか血となり肉となる、いや骨となる日が来るはずだ！ (by 里)

裏ジャパンカップ。

シマノJ.C.関東予選が行われた9月7日当日。タイトルホルダーの岡田氏と、里ちゃんが椎の木湖で奮戦しているであろうそのお隣、羽生吉沼へ。(ちなみに、里ちゃんは一回戦で撃ちん)

先月は久々の三島湖に舞い上がり、1日ダンゴに興じてしまったので、今度こそ、真面目に岡田氏のセット釣り理論の解明だ。

天気はいにくの雨だったが、熱心な岡田氏のおかげで非常に満足な1日となった。浦島太郎的なシヨックも受けた。こちらのつたない取材に、ひとつひとつ丁寧に、包み隠さず答えてくれた岡田氏に心から感謝したい。

勝ち続ける岡田清は、セット釣りについてどのようなスタンスを持っているのか。僕なりにつつこんで解明してみたい。

ページの都合上、今月と来月の2回に分けて掲載させて頂くが、我ながら画期的な内容であると自負しているので、ぜひ読破してみたい。

ところで、先月号で、岡田氏から「江成君と知り合って11年」という素晴らしいコメントを戴いた。もうそんなに経つかなあ。十年ひと昔というけれど、あつという間だったような気もする。いろいろあったけど、釣りの進歩はともかく、果たしてこの十年で人として成長する事が出来たのだろうか。自分では何も変わっていないような気がする。

鬱だ…

「なぜ理論的」について。

その時々テーマごとに、ぜひ押さえておきたいと思うトピックをまとめたコーナーです。江成の能書きということになってはしますが、自分自身のおさらいの意味も含め、あえてまとめさせていただきます。また、このコーナーの大きな趣旨である、「1ヶ月釣行でいかに上達できるか？」という意味も、十分に込めたつもりです。もちろんゲストの先生との対話を通して再確認・再構築したものですから、ぜひ参考にして下さい。

懺悔。

先日、とても誌面では書けない事をやらかしてしまいました…詳しくはHPでどうぞ。そばにいた方には、本当に申し訳なく感じています。大変反省しています…。



チャンプとの一問一答。  
「えなりから見たら今日のセットについて」

Q (江成) 今日の岡田君の釣りを見ても、タナに完全にナジませるセット釣りから落ち込み加減のセット釣りへ、主流が変わったように感じるんだけど、岡田君はどう感じていますか？ 以前は「激シブならガッチリバラケを抱えさせて待つ」とか、「アタリが少ないなら下ハリスを長く…」ってのが定説だったでしょ。だけど、最近の釣りを見るとつけ、明らかにそういう常識。



が通用しなくなってるよね。僕はちょうど移行期あたりで止まってるんだけど…。あ、もちろんタナ規定(メーター)の池での話がメインだと思うけれども。

A (岡田) その傾向は間違いないけどありますね。僕もね、江成君と同じように移行期っていうところで相当悩んだんですよ。セットはきっちりナジませるのが基本だと思ってたから。でもこれじゃ勝てないと気付いて猛練習しました。江成君のイケイケの頃は、どういう風にウキを上げていくかだったでしょう。いかにタナを作るかって事だったよね。今は、上から抜かせつつ、どういう風に入れていくか、なんです。ナジミ幅で言えば、中ナジミっていうか浅めになる事が多いよね。もちろん深ナジミもあるけど、決して「ゼロナジミ」ではないんです。このところを結構勘違いしている人が多いんですよ。甘けりゃいいってもんじゃない。そりゃ、水面でいくら釣れちゃうでしょうけど、そんなに甘くないです。実際、かなり難しい釣りだと思いますよ。

Q 落ち込み加減のセットは、「速攻」と捉えていいのかな？

A いや、一見そう思われがちだけど、そうとは限らないですね。結局、魚がタナ(ここでは、仕掛けがしっかり垂直に張った状態を指す)に入らないから、途中で釣るってだけの事だから。ナジませる釣りが成立する状態があつてはじめて「速攻」な訳で。ただ、今の釣り場では、タナを作るってのは、かなり難しいんです。へらが溜まってこないっていうか…。もちろん、落ち

込みとはいえある程度のタナ(ここでは、魚を集める位置を指す)は意識する訳で、ウワズリの中でも抑えるところは抑えてかないと…。あ、こんな事は分かってるよね(笑)

Q 今、そんなにナジませて釣るのって難しいんだ…。落ち込み加減の釣りも難しそうだから、何とかナジませて釣る方向でヒントを貰いたかったんだだけだよ。

A うーん。キチンとナジませてもタナは作れるかもしれないけど、短時間のトーナメントでは難しいかもね。でも僕もホントはナジませるの好きなんです。決まれば長続きすると思うから。実際、今でもタナを作るっていうイメージは大事ですよ。薄くてうんと渋い池なら、ほっといてもぶら下がっちゃうし(笑)、さっきも言ったように「落ち込み加減なりのタナ」ってのもある訳ですから。だから、江成君や大竹君達とさんざん練習したあの頃に役に立っていると思います。最近の若いコの中には、こら辺の理解が欠けているコがいると思います。形から入ってしまうと(最初から落ち込み加減の釣りでは)、マスター出来ない部分があるはずなんです。後々の応用を考えると。ただ現実には、そこそこへらがある池だと渋っても落ち込みなんだよね。渋い時のダンゴの一発取りのように。ま、僕はやっぱり規定のない池で、あまり無理のないタナで釣るのが一番楽しいですね。江成君はしばらくナジませないで練習して下さい(笑)。

Q 「食い渋り」の状態のイメージに変化はあった？ 渋っても落ち込み加減

ってのは理解出来るんだけど、バラケがちよっと自分のイメージより甘いって感じるのよ。最近のよく釣る人を見ると：

A はあ、江成君は「食い渋り」遠まき(※)っていうイメージのままなんだね。今はね、「食い渋り」追い渋り」と言えるかもしれないよ。バラケの煙幕の中に入って来ても反応しないって感じ。だからセッティング的には、意外と接近戦と言えるかもしれないですね。魚が一段賢くなって、大胆になったってことでしょうか。

Q 上ハリスの長さはどう考えてる？

A 落ち込み加減のセットを成立(バラケと食わせの距離)段差(※)させるためには、やはり出来るだけ短い方がいいです。この点については、江成君達の短ハリスがあったからこそ成立した釣法だと言えらると思います。で、追わせる役割を上ハリスに求めるのだから聞いてると思うんだけど、微調整以外では、今しゃべったようにノーです。追わせる役割(タメ)は、ウキに求めて下さい。仕掛け全体で追わせるイメージですね。どうしても大きいウキしかなければ、ハリスを伸ばすしかないですが、その時は、以前、江成君がやっていたように、上下のハリスを上バリのチモトあたりでトンボで固定すると思います。これでセットが成立するでしょう。こんな回りくどい事、僕はまずやりませんけど(笑)。

以下、次号へ続く(※)、(※※)についても詳しくは次号の「えなり理論」にて！

## 『えな理論』

## file.1 固形物にアタるメカニズム

へらの活性が低い時、バラケ性が強いエサの芯には反応しない。なぜなら、周りにいるだけでこぼれ落ちる粒子を食う事が出来ると学習しているからだ。両ダンゴの食い渋り時に、ノーバラケに近いエサで拾えるというケースがこれにあたる。まれにバラケ性の強いエサを打ち切る事で、活性が付いたりいいへらを寄せ切れたりするケースもあるが、なかなかそうはいかない。やはりノーバラケに近いエサでカラツンの中から我慢して拾っていく事が多いだろう。「待っていてもバラケないから、バラケさせに行くしかない。」これがカラツンやサワリを生み出すへらの動きだ。

さてこのノーバラケのエサだが、粒子を潰して練り込んだネバよりも、ボソッ気の残ったエサの方がいい事が多い。もちろん上から開き過ぎてはまずいので、粘りの少ない素材であれば硬めだろうし、粘る素材を多用していればわりと軟らかめで勝負出来る事になる。使い分けはケースバイケースだが、いずれにしても大事な点は粒子が立っている事、すなわちボソである。このボソの部分について説明する時、「抑えたエサで釣り続ける中での唯一の寄せ効果」で語られる事があるが、最も大事な事は「魚が触れた時の開き」だと思う。バラケさせに来てくれたへらの食い気にマッチした開きがあれば口にし、気に入らなければ口を開けず、そのまま押し切ってしまう。本当にバラケの悪いエサは只の異物でしかないからだ。僕達はこの現象を「ぶつかり・押し」と呼んできた。口には入れたけれども「吐き出しの早さ」によりカラツンになるというイメージも含め、持っていないよりはマシだと歓迎してきた。へらにとってのバラケの悪さが重要なことから、釣り人側から見てしっかりナジんでいるから持っているはず…という次元ではない。どこで判断するのかと言えば、口回りのスレる位置がひとつの目安。アッパー系は持っていない事が多く、鼻や目は持ち過ぎの事が多い。ちょっと戻しては粉材をバラバラという目まぐるしいエサの手直しをする釣りになる。さらにこのような地合のときには、高い位置での一発取りになる事が多い。どんなにバラケを抑えたエサであっても、時間の経過と共にエサは溶け出してしまいうため、なるべく早い方が釣り人にとっては都合がいい。へらにとっても、バラケの悪さ(=興味を惹く状態)・自然落下中と二つの要素でもっとも飛び付きやすいタイミングといえるだろう。一発目のアタリが弱いからと見送っても無意味だ。開き出してしまったエサにアタリ返しはあまり期待出来ないのだ。

以上をふまえ、固形物について考えてみると、「固形物は究極のノーバラケ」と言えないだろうか。開きを持たないのだから、カラツンも多いはずである。

暖期の固形物を用いたセット釣りにおいては、激カラになりやすい。渋いとはいえ開くものに反応が全くないわけではない時期なのだから上バリにも反応するし、下バリへは「開き(ノーバラケ)を嫌うことによるアタックで反応を出す」という事で当然なのだ。しかし近年、この激カラをいくらかはかわせる要素が研究されてきた。それは、「落

下中」というファクターだ。へらにとってただの異物でしかない固形物の自然度をいくらかは向上させることが可能になった。が、ベースはカラツンであることに変わりない。信念と集中力も必要になる。

厳寒期の固形物のセットは暖期よりはカラツンが少ないと言われている。冬場は「食うエサ」に化けるのだろうか。いやそんなはずはない。異物は異物であると思う。では、下バリの自然度を上げる要素はあるだろうか。これもなさそう。暖期よりもきれいにぶら下がりがやすいはずで、むしろ不自然度が高まると言えそう。以上のことから冬季のヒット率向上の理由は、下バリに関しては釣り人側ではなくへらの方にあると考えられる。変温動物であるへらの生態からすれば、水温低下による動きの鈍化に伴う器用な食い方(ぶつかり・押し)のしにくさや、吐き出しスピードの低下が想像できる。上バリに関しても同じように、暖期程の反応がなくなることで余分な動きが消えて釣りがやすくなる(下バリの動きに集中できる)と考えられる。またこのことは暖期に比べ、実はアタリの総量が減っている可能性を示している。もしかすると、ヒット率向上は錯覚なのかもしれない。

「クワセ」という言葉には、それを付ければいかにも釣れると勘違いしてしまうような響きがある。実際へらが釣れちゃう特効薬ではないのだが、アタリが増えるケースが多いために多くの釣り人は錯覚してしまう。すこし前までセット釣りにおいてのカラツンを説明する際、上のバラケにアタっているという説明が定番だった(下バリは「クワセ」なのだからアタれば乗るはずという事だろうか)。暖期や、「開き(もしくはそれを捕うふくらみ)を持つクワセ」で釣りになる地合なら十分にあり得るが、厳寒期ではどうだろう。両ダンゴで気配も感じられないような状態でも、セットにすれば上バリにアタってしまうというのだろうか。バラケが一つになった事による反応増か。そんなはずはないと思う。暖期でも、心配なら上バリだけで打ってみるといい。糸ズレを含め、いかに下バリ・下ハリスに反応していたかが分かると思う。「クワセ」…人間都合の攻撃的な言葉ではあるが、積極的にアタリを出させに行くという意味では悪くないネーミングだと思う。「アタらせ」ではしっかりこない。

固形物はカラツンが多く出るエサであるならば、その特徴を別の角度から利用する事も可能だ。一定のアタリの量を得る事でリズムある打ち返し生まれ、寄りが保てる可能性もある。その結果、数投に一回上バリのダンゴを食ってくるかもしれない(笑)。これは半分冗談で、もちろん「カラツンを減らす最大限の努力=キチンと下バリを食わせる努力」はしないとただ疲れるだけだ。「ぶつかり・押し」を逆利用してせっかく増やしたアタリ。これを確実な食いに繋げるためには、バラケの粒子と間違っ吸い込むというイメージだけでは説明出来ない要素を考える必要があるだろう。

### 役立つ優れものか？ 無用の長物か？ 「釣り具らしきもの」を検証する

Nov.2002

No.443

# 11

# こんなもの要らない!?

13

トピックス

- 162 **投稿 我流三島湖奮戦記** 高橋謙司さん
- 168 **フォーカス20周年記念大会** 友部湯崎湖
- 171 **2002放流・家族 釣りの祭典開催** 北本総合公園
- 172 **DUEL CUP 2002 BASS&HERA** 吉羽園
- 175 **第1回 ジュニア体験沖釣り教室**

### COLOR (カラー)

- 四季を釣る ムードある秋の釣り場
- 4 谷中湖 池内水路(栃木県藤岡町)
- 6 多々良川 日向橋周辺(群馬県館林市)
- 8 蓼沼(栃木県三川町)
- 20 **小池忠教&伊藤洋一のHIGH VOLTAGEで釣りまくれ!!**  
《第9回》仮想例会。聖地・三島湖を攻略せよ!!
- 27 **戸張 誠がズバリ回答 例会作戦①場所②エサ③仕掛け**  
《第9回》羽生吉沼(埼玉県羽生市)
- 30 **野釣り場のスケッチ 北川穂積**  
《第119回》久賀ダム(岡山県)
- 36 **40cm上べらで勝負!ショーブ!! 山内研作VS生井澤 聡**  
《第11ラウンド》高滝湖(千葉県市原市)、そして…
- 44,112 **列島縦断・旅するカメラ**  
《千葉県26》茂原～長南～長柄 野牛のセキほか



- 113 **対決mode 1, 2, 3! 棚網 久**  
(Battle.20)ラストステージ! 久保芳文の鷹進に、ついにこの男が立つ!!  
チャレンジャー:久保芳文君 清遊湖(千葉県沼南町)
- 119 **杉山達也のSPLASH BEAT**  
《Vol.16》加須吉沼『深宙両ダンゴ』でスブラッシュ!

- 124 **熱血釣り女・吉川ひとみがいっ!「へらってヤバいわっ!!」**  
《第5回》雨の清遊湖で修行、修行!  
GUEST:岡田 清さん



- 132 **釣りクラブ見参!**  
《第40回》チームアカデミー 野田幸手園

- 141 **笑顔でフィッシング**  
フィッシングレディ:堀川めぐみさん 東武動物公園の池(埼玉県)



- 142 **上州屋グループへら鮒用品充実店紹介**  
《第24回》フィッシングジャンボ大垣店(岐阜県大垣市)

ワクワク管理釣り場情報	90	プレゼント発表	179
小売店情報	94	釣果予想クイズ	180
野田幸手園新聞	110	データサロン	188
読者のページ・VOICE	164	広告索引	191
情報ステーション	177	編集後記	192

トピックス

- 32 **第9回 わくわくフィッシングフェスティバル**  
マルキューペアへら鮒釣り大会開催 野田幸手園
- 136 **シマノ新製品「朱文峰・煉」発表会開催** 椎の木湖  
**MONOCHROME (モノクロ)**  
エリアレポート
- 50 豊田湖(山口県) 河口正伸
- 52 邑知瀧(石川県) 山本一朗
- 53 佐仲ダム(兵庫県) 前田誠志
- 54 堀津かつば池(愛知県) 後藤 誠

- 57 **STAGE 21TH 野べらを求めて 森田昌宏**  
《第22回》洲の野原(茨城県東町/桜川村)

- 65 **続・野釣り場漫遊記 江口正弘**  
《その83》深谷&能実(千葉県夷隅町)のセキを釣り歩く

- 68 **四季対応の攻略法! 富永 勲のダンゴ一直線!**  
《Vol.11》谷和原大沼(茨城県谷和原村)

- 72 **北城 錦さんがガイドする 隠れた釣り場 再発見**  
《第11回》ジャコ川(茨城県東町)

- 76 **レディス版 釣り場ガイド キャサリン**  
《No.36》鎌北湖(埼玉県毛呂山町)

- 78 **荘野諒爾が身を犠牲にして教育係を務める 総合50位からの脱出**  
《No.10》野田幸手園(千葉県野田市)

- 82 **水辺のプラネタリウム 吉本亜土**  
《今月の星空》隣の芝生

- 86 **八百八釣 へら日誌 天野正由**  
《その36》50cmの夢追いかけて 相模川・新戸スポーツ広場裏&昭和橋下手ほか

- 97 **より簡単に釣るためのキーポイントアドバイス 小平正直**  
《第2回》豊英湖(千葉県君津市)

- 101 **ガッツ小林が攻めまくる 若さとファイトの激釣記**  
《第4回》下条川ダム(新潟県三条市)

- 104 **江成公隆のトーナメント、復活への道。**  
《Vol.5》スーパーチャンプ岡田 清のセット釣り②〜スーパーチャンプとの一問一答!〜 羽生吉沼

- 145 **竹、合成竿を使用した 未開の釣り場 釣行記**  
《その7》紋屋池、野村田池ほか(茨城県石岡市)

- 152 **人間カーナビ実践編! 稲毛利夫の快釣! 野釣りワールド**  
《Vol.11》唐桶溜(栃木県芳賀町)

- 156 **きったりはったり関西風味 西田美明**  
《第81回》「釣りは思い出作りのために」 安室ダム(兵庫県)

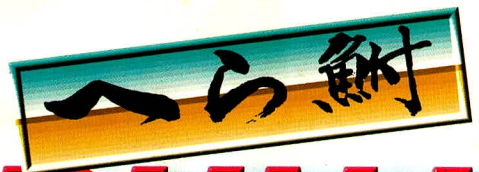
- 158 **へら鮒釣りを愛する人たち 松戸 健**  
《人物往来41》白鳥 清さん

- 161 **セッキーのちょっと一息 関根正義**  
《その21》へら鮒用語集③



平成14年11月1日発行 (毎月1回1日発行) 第37巻第11号 昭和41年5月4日第三種郵便物認可  
MONTHLY FISHING MAGAZINE SINCE 1966

# HERA BUNA



Nov.2002

No.443

11

**特集**

「釣り具らしきもの」を検証する  
役立つ優れものか?  
無用の長物か?

へら鮒釣り具・考察シリーズ⑪

こんなもの要らない!?

40cm上べらで勝負! ショーブ!! 山内研作VS生井澤 聡/高滝湖  
対決mode 1,2,3!・棚網 久/久保芳文君、全ステージ突破なるか?  
小池忠教&伊藤洋一のHIGH VOLTAGEで釣りまくれ!!/三島湖  
STAGE 21TH 野べらを求めて・森田昌宏/洲の野原

八百八釣へら日誌・天野正由/相模川  
隠れた釣り場 再発見・北城 錦/ジャコ川  
レディス版釣り場ガイド・ギャサリン/鎌北湖  
杉山達也のSPLASH BEAT/加須吉沼

昭和41年5月4日第3種郵便物認可  
 平成14年11月1日発行  
 第37巻第11号(毎月1回発行)

# 「ぶに」と「いも」の いいトコ取り!!

グルテンエサでありながら、経時変化が少なく、乾きにくい「ぶにグル」。  
 その秘密は、配合された「ぶに」成分にあります。  
 作ったエサを最後まで使い切れ、これからの空気が乾燥する時期でも、表面がパリパリになりにくい。  
 この「ぶにグル」に、重さをつけられ、食いもよくなる「さつまいもマッシュ」を加えると、どうなるでしょう。  
 さて、その答えは下の通り。新しいグルテンエサが、誕生しました。



## 「ぶに」+「さつまいも」の 新感触グルテン 『いもぶに』登場!

「ぶに」成分と「さつまいもマッシュ」を配合したグルテンエサ「いもぶに」。「ぶに」の成分により、経時変化が少ない上に、乾きにくいのが魅力です。また、「さつまいもマッシュ」が、適度な重さをプラス。ウキをしっかりなじませて、タナを安定させやすくなります。さらに、「ぶにグル」より重く、「いもグルテン」より軽い仕上がりで、宙でも底でも自由自在に攻略可能。もちろん、食いのよさも同時にアップ。グルテン量が多く、エサ持ちも抜群。待つよし、誘ってよしと、多彩な攻めをお楽しみください。

●いもぶに ¥500

**NEW**  
 10月初旬  
 新登場!



つれるエサづくり一筋  
**丸マルキユー**  
<http://www.marukyu.com/>

本社 福川工場 埼玉県福川市赤堀2-4 〒363-8509 TEL: (048) 728-0909(代) FAX: (048) 728-3909  
 大坂支店 大阪府寝屋川市桶根南町12-14 〒572-0811 TEL: (072) 824-0909(代) FAX: (072) 825-0909  
 四国営業所 香川県坂出市西大浜北3-4-33 〒762-0053 TEL: (0877) 44-0909(代) FAX: (0877) 44-3909  
 九州営業所 佐賀県鳥栖市姫方町341-8 〒841-0023 TEL: (0942) 82-0909(代) FAX: (0942) 83-0909

釣り場でエサに困ったら  
 iモード・ホームページ  
<http://www.marukyu.com/i>



定価 1000円 本体九五二円